

5. どうして水をためておくの？ — 温水池おんすいち

川で行われた大きな工事

川につながるふだんの暮らし

川につながる農業

川につながる漁業や工業



広々とした池。

(1) 水路の始まりは池

用水路ようすいろをさかのぼると広い池がありました。なぜ池があるのでしょうか？

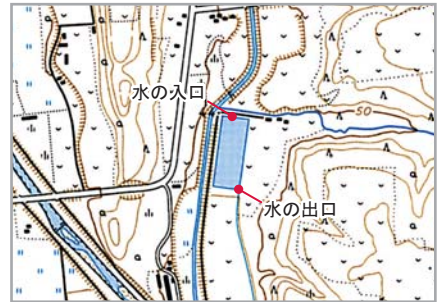
注意!!…池の岸は急になっている上、思った以上に深いことがあります。入ったり、落ちたりしないように。



反対側から見た池。

(2) 水が入るところ、出るところ

池の周りを見てみると、水が入るところと出るところがあります。入るところでは、水がすぐ池に流れこまず、回り道をして入るようになっています。また、水が水路に出るところでは水がせき止められ、そのとびらの上から流れ落ちています。



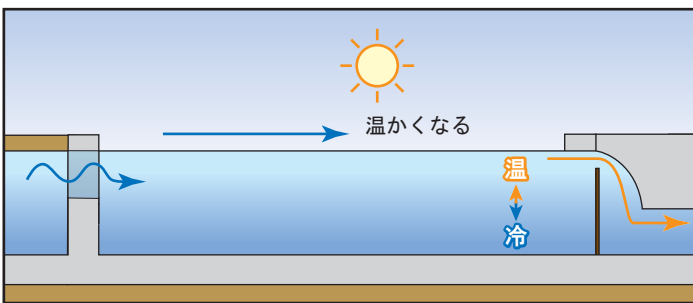
(上) 地形図ちげいずにのっている池。
(この地図は国土地理院刊行の1/25,000地形図(十勝川温泉)を使用しました)



水の入り口。かべがつくってあり、いきおいよく流れこむことができない。



水の出口。水門のようなものがあり、水はとびらの上から流れ落ちて水路に入る。



(3) 温まった水を送るためにあたた

この池は温水池おんすいち※1といって、水田に送る水を太陽で温めるところです。水温いねが低すぎると、稲の育ちが良くないために、こうした池が造られます。

入り口ひくさつが複雑なもの、冷たい水が勢あたらいよく出口に向かうことを防ぎ、池でしっかり温まってから出ていくようにするためです。

また出口あたらの仕組みは、温まった水が表面せいつに上る性質を利用して、表面の温まった水を用水路に流すためのものです。

付録

温水池おんすいちのイメージ。入り口では水が勢あたらいよく流れこまないようにして、出口では表面せいつの温まった水が流れ出るようになっている。(イメージ図であり、実際の形や大きさは異なります)

※1 温水池(おんすい池・おんすいち)：主に水田で利用する水を太陽光で温めるための池。